

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第36週 (8/31-9/6) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	36週	35週	34週	33週
小児科	18	18	18	15
眼科	5	5	5	3
インフルエンザ*	28	28	28	22
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	8/31-9/6	8/24-8/30	8/17-8/23	8/10-8/16	8/24-8/30
			36週	35週	34週	33週	35週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		0	1	0	0	9
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	4	7	5	60
	感染性胃腸炎		28	21	26	17	166
	水痘		2	3	2	1	16
	手足口病		1	2	6	2	11
	伝染性紅斑		3	0	1	0	0
	突発性発しん		13	15	10	12	77
	ヘルパンギーナ		2	0	3	0	5
	流行性耳下腺炎		0	1	0	1	11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	0
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	2	7
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(28件)

※新型コロナウイルス感染症23件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定
結核	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出				
結核	女性	40歳代	IGRA検査	新型コロナウイルス感染症	男女	10歳代~70歳代	病原体遺伝子の検出等
急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	-	-	-	-

・第36週は、結核3件(103)、急性脳炎1件(8)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(2)、新型コロナウイルス感染症23件(438)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第36週のコメント

過去10年の同時期と比べると、全て平均未満又は報告無しとなっている。

<トピック>

<急性脳炎>

第36週に市内の医療機関から1件の届出があり、2020年の発生届出累積数は8件となりました。

急性脳炎は、ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く種々の病原体による脳組織の炎症に起因する疾患群の総称です。このため全体として単一の疫学パターンを取らないことが多いのですが、冬のインフルエンザシーズンに一致して脳症が増加する傾向も認められています。病因となる病原体は多種多様で、冬のインフルエンザが特定されたものでは単純ヘルペス、ヒトヘルペスウイルス6型、エンテロウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス、インフルエンザウイルス、麻しんウイルス、風しんウイルスなどがあります。

2020年第35週までの全国の発生届累積数は377件で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、千葉県(35件)、愛知県(26件)、神奈川県(25件)の順で多く報告されています。

千葉市における2010年から2020年第36週までの合計届出数は170件で、2016年をピークに減少傾向となっています(図1)。

男女比は男性55.3%(94件)、女性44.7%(76件)で、年齢階級別では、10歳未満:75.3%(128件)、10歳代:15.9%(27件)、20歳代:2.4%(4件)の順に多くなっています(図2)。170件のうち、原因ウイルスが特定されたのは27.6%(47件)で、インフルエンザウイルス(A、B及び型別不明を含む。以下同様):53.2%(25件)、ヒトヘルペスウイルス(6型及び7型):14.9%(7件)、ロタウイルス:8.5%(4件)の順に多くなっています(図3)。月別の届出数は、冬期と夏期に比較的多くなっています。特に冬期はインフルエンザウイルスを原因とするものが半数程度を占めています(図4)。

感染予防としては、うがいや手洗いの励行で、麻しん、風しん、水痘、インフルエンザ、日本脳炎などに対しては予防接種を行います。

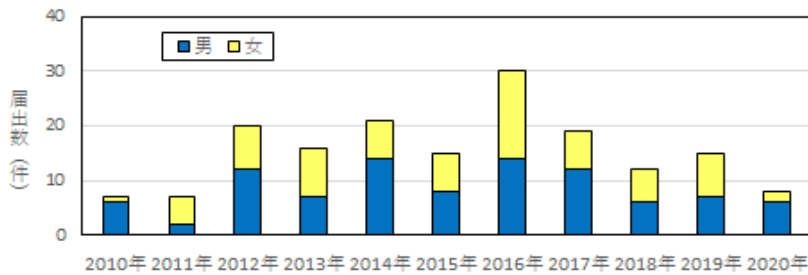


図1 届出数の推移  
(2010年-2020年第36週 n=170)

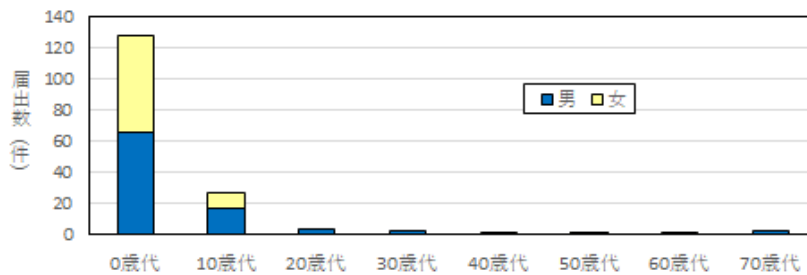


図2 性別・年齢階級別  
(2010年-2020年第36週 n=170)

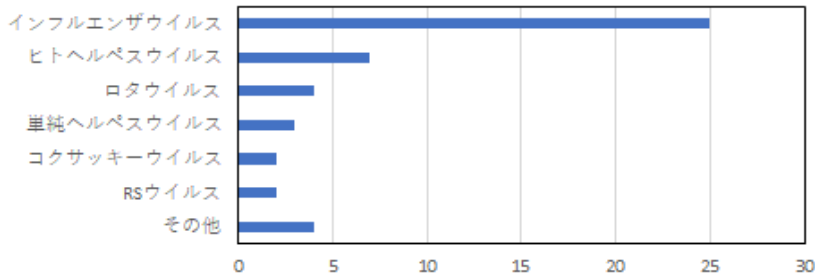


図3 特定された病原ウイルス  
(2010年-2020年第36週 n=47)

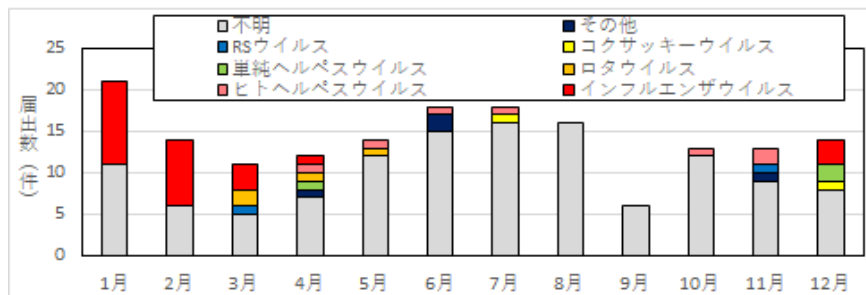


図4 月別原因ウイルス  
(2010年~2020年第36週 n=170)